



〈会長退任に当って〉

加 藤 威 夫*

私は40年月5、安川前会長のあとに会長を御引き受けしたのであったが、会長の如き重責はつとまらないとは存じたものの先輩であり、私の最も尊敬する安川さんの御推薦であるので、御断りする気にもなれなかったまま、御引き受けした次第であった。自信も充分なかったので、会員諸君には、まことに、物足りない会長であったことを安川前会長や諸君に誌上で改めて、御詫びする次第である。

然し私の就任中に理事者諸公のよき御指導と会員各位の御協力とによって、研究活動も順調に伸びて、会員数や使用資金の面から見るときに、毎年約25%の成長をとげたことを喜んでいるものである。

殊に去る8月には、米国OR学会会長ウォルシュ博士の要請を入れて、非常に困難な国際会議（ORAW）を開くことが出来、而も相当の成果を収め得たことは、私の最も喜んでいるところである。又九州支部の設立、大西賞の設定等数々の思い出がある。

ORという経営科学も電算機の発達とともに、無限の可能性をもつ経営の有力な道具となりつつあるので、此のOR学会の使命も更に倍加するであろう。

此のときにあたって、産業会の超一流の人物である土光東芝社長を会長に御迎えすることが出来たのは、本会のために、日本産業界のために、此の上なき幸いと存じている。

OR学会が今後益々御発展されるように切望してやまない次第である。

* 日本建設株式会社相談役